

平成24年度 目黒区立第八中学校 学校評価のまとめ

(平成25年3月5日)

評価項目	自己評価の結果	次年度の教育課程の改善点
学校教育への満足度 ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて 1 3 5 保護者 76% 生徒 74% 地域 100% 教職員 90%	・学校生活への充実度については生徒、保護者とも80%の肯定的な評価だった。学年により開きがある。上級生になるにつれて充実度、満足度ともに高まる傾向がある。 ・学校行事（合唱コンクールや運動会）に対する取組、生徒の活動に対しては、満足度は高い数値を示していた。が、学習規律や生活態度にけじめがない部分が見られ、数値が昨年度より低下した。 ・教職員は「親切、丁寧、誠実」を目標として保護者、地域の方に対応した。	・特に生活指導に力を入れ、教職員全員で質の高い集団を目指す。けじめある生活、授業規律の徹底、心の教育の充実に取り組む。 ・学級の落ち着いた雰囲気が意欲につながり、結果として学力向上にもつながると考える。学級経営に力を入れていく。 ・引き続き「親切、丁寧、誠実」な対応に心がける。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○教職員の対応については、保護者・地域共に高い評価であり、特に地域では昨年度より20ポイント高い。 ●生徒の教職員の対応については、昨年度より7ポイント下回っている。	<学校評価委員の意見> ・運動会、合唱コンクールなどの評価は高く、満足度も高いといえる。行事で達成感を味わわせ、学習にもつなげていくことが必要ではないか。
教育課程 ・教育目標、時程、教育内容全体について 6 7 保護者 83% 生徒 71% 地域 91% 教職員 86%	・教育目標や指導の重点については、子どもや地域の実態に合っているとする評価が保護者・地域とも多く、高い数値を示している。 ・教育目標の理解・共感については、少しポイントが下がっている。生徒の教育目標への理解度が低く、昨年度より10ポイント下がった。 ・教育目標は次年度も継続する。重点項目を決め、常に意識した教育活動を展開する。	・年度当初の「学校だより」への掲載を継続する。 ・生徒には朝礼や開校記念日などの機会を捉え、教育目標の理解を高める。 ・教育目標の一つ「求めて学ぶ」を重点項目とし、あらゆる教育活動の中で意識させる。 ・思考力・判断力・表現力の充実に取り組む。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○年度当初の学校だよりにより教育目標や指導の重点を掲載し、周知してきたことで保護者・地域の評価は高かった。 ●生徒の教育目標への理解度が低く、昨年度より11ポイント下回っている。	<学校評価委員の意見> ・教育目標三項目とも生徒たちに身に付けさせたい項目である。重点項目をしぼるなどして、徹底させてみてはどうか。
心の教育 ・道徳の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 8~10 保護者 84% 生徒 88% 教職員 91%	・「道徳授業地区公開講座」への保護者の評価は高い。道徳授業の充実を学校経営方針の柱の一つとしたため、教職員による道徳への取り組み評価は高い。校内研究授業も行い道徳についての研修も深めた。 ・11月を「いじめ防止強化月間」として全校で取り組んだ。大きな成果を上げたが、心が育ったとはいえない。「命の授業」など自他の命を大切にする取組が必要と考える。 ・通常の学級とE組との交流が少なかった。	・「道徳授業地区公開講座」への保護者・地域の参加を増やすために、土曜日実施とする。 ・道徳の授業で、生徒と教員、生徒同士がもっと意見交換できる時間を確保するなど授業の工夫・改善を行う。 ・2学年で他教科との関連を図りながら「命の授業」を行う。E組との日常的な共同・交流学習を深める。

	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○道徳の授業はもちろん、全教育活動を通しての取組が保護者に理解されている。また、生徒の評価も昨年度より若干伸びており、定着してきている。 ●道徳の授業で生徒と教員、生徒同士の意見交流や認め合う時間があり、評価も 71% であった。	< 学校評価委員の意見 > ・道徳授業地区公開講座に参加したが、工夫した授業で、生徒と先生と一緒に考えていた様子がうかがえた。さらに充実させていってほしい。E組との日常的な交流を深めてほしい。
学習指導 ・学力の定着・向上にむけた授業の改善・充実、少人数指導、放課後学習教室等の取組について 11 12 13 26 28 ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 保護者 69% 生徒 76% 教職員 81%	・学習規律の定着の項目は、授業規律の乱れがあったことにより保護者の肯定的な評価は 47% であった。また生徒についても、48% であった。 ・工夫した授業をする教員については、保護者 69%、生徒 72% であった。お互いの授業を見合い研修を深めるなど、「楽しく分かる授業」を目指していく必要がある。 ・体験的な学習については、保護者は 85% と高かったが、生徒は 75% であった。 ・体験的な学習への積極的な取組についての肯定的評価がやや低い。1 学年での「八ヶ岳自然宿泊体験教室」、2 学年での「職場体験」、3 学年の「修学旅行」を中心にねらいを明確にし、事前・事後学習の充実を図る必要がある。 ・放課後学習教室を実施しているが、参加する生徒が固定化してしまった。部活動と同じ時間帯で参加しづらいものと思われる。定期考査前の土曜補習は好評であった。	・来年度も可能な限り少人数授業を行っていく。 ・今年度に引き続き分かりやすい授業を目指す。 ・思考力、判断力、表現力を充実させて学力の定着・向上に向けた授業の改善方法を研究し、実践するように努める。学校全体での組織的な授業改善、授業力向上を目指す。 ・体験的な学習を充実させ、進路への意識をますます高めていく。 ・一つ一つの体験的な学習の意義を明確にし、他の教育活動との関連を図っていく。 ・放課後学習教室について定期考査の結果などから参加を促していく。課題を与えるなど日常的な補習が必要である。
	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○今年度は当初から国語の少人数授業、英語、数学は年度途中から少人数授業を実施し、生徒の授業規律向上を目指し、確立できつつある。また、体験的な学習を通して、子どもの進路に関する指導を行い、進路への意識が高まりつつある。 ●授業規律の確立を目指すと共に、分かりやすい授業の工夫が不十分だった。	< 学校評価委員の意見 > ・授業を見学したが、学年によって授業態度に差があるように感じた。指導の難しさもうかがえた。 ・家庭とも連携して、授業規律の確立に向けて努力してほしい。地域としても協力できることはしていきたい。
特別活動 14 16 21 ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて 保護者 85% 生徒 85% 地域 95% 教職員 100%	・学校行事においては支持する意見が多い。さらに行事の工夫をしていきたい。異学年の交流など工夫すべき点を実現する。特にE組との日常的な交流を充実させていく。 ・部活動では教職員全員が顧問になり生徒と共に熱心に活動している。生徒の主体性や規範意識を育てるよう活動内容の充実・改善を考えていきたい。 ・顧問が常に指導に当たれるわけではないことから、外部指導員を確保し、生徒の期待に応えるように工夫する。	・行事の工夫や小・中連携による活動の充実等を実現させる。部活動は生徒の偏りもあるが部員数が少ない部活動でも工夫し継続して存続できるようにする。 ・引き続き外部指導員の確保に努める。 ・生徒会活動と共に、自主的・主体的な取組を多くしていく。 ・E組との日常的な交流・共同学習を深める。

	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○生徒評価は前年度と変わらない。地域、教職員は 10 ポイント上がっている。 ●保護者による評価が 9 ポイント下がっている。	< 学校評価委員の意見 > ・課題もあろうかと思うが、部活動を八中の特色の一つとして充実させてほしい。
生活指導 17 27 2 ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 保護者 47% 生徒 81% 地域 84% 教職員 40%	・学年によって、生活規律や学習態度のできていない部分が多くある。学校全体で取り組み、指導はしているが厳しい状況であった。生徒と教員が関わる時間をもっと取るなど信頼関係を深めていく中で指導を継続していく。 ・不登校の生徒の割合は多くはないが、心にストレスや悩みを抱えている生徒が増えている。 ・特別支援教育の研修を多く実施し、指導に役立てた。特別な支援を要する生徒への対応について来年度も継続して研修を深める。生徒理解に基づいた指導を充実させる。	・前年度よりかなりの下降ポイントを修正するには、根気強く全校体制で取り組んでいく必要がある。関係諸機関との連携も密にする。特に生活規律が全ての基本となっているので常に声をかけ主体的に正しく判断し、行動できる生徒が多くなるように指導を進めて行く。 ・保護者の協力を継続して依頼し、家庭での会話や指導も呼びかけていく。
	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○上級生は良い見本となっているので地域は 20 ポイント近く上がっている。 ●保護者による評価は 26 ポイント、生徒は 4 ポイント、教職員は 44 ポイント下がった。	< 学校評価委員の意見 > ・「いじめ防止強化月間」などの取組は評価できる。いじめが起きてから対応するのではなく、いじめが起きない環境づくりが必要と思う。
安全教育 18 19 ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 保護者 75% 生徒 80% 教職員 90%	・避難訓練、引き取り訓練、セーフティ教室、登下校指導などを通じて、安全管理に対する意識を高めて安全を守るための適切な行動の指導に努めている。緊急時に備え、引き取り訓練は改善しながら継続して行う必要があると考える。 ・様々な場面を想定した避難訓練を計画的に実施し、災害に対する意識・知識を高め、適切な行動を取ることができるよう指導を継続して行う。 ・技術・家庭科と連携し、1 学年で「情報モラル」についての学習を行った。	・避難訓練、引き取り訓練、集団下校訓練など、反省点を生かし指導の改善に努める。 ・教職員全体で来校者へのあいさつ・声かけや名札着用を行うなど、事故・事件の防止に努める。また、緊急時の対応の共通理解を徹底し、災害や事故の発生時に備える。 ・情報モラルについては道徳の授業でも扱っていく。
	< 四者による学校評価の主な内容 > ○成果 ●課題 ○多くの生徒が避難訓練や集団下校訓練に対して真剣に取り組んでいた。 ●安全教育について、保護者は 7.9、生徒は 6.3、教職員は 9.1 ポイント下がった。	< 学校評価委員の意見 > ・安全教育に計画的に取り組んでいる様子がうかがえた。防災について、さらに地域と連携して取り組んでほしい。
健康教育 25 ・運動の機会の充実、食育や家庭への啓発等 保護者 73% 生徒 84% 教職員 86%	・栄養士をはじめ、食育の充実に努めた結果、生徒の食育に対する関心が高い。地産地消給食、郷土料理を取り入れた給食など食への関心が高まった。PTA 地域家庭講座で「食育」を取り上げ、栄養士が家庭への啓発を図った。 ・運動の機会の充実、部活動で毎日たくさん運動している生徒と運動に消極的な生徒の差が大きい。 ・給食後の歯磨きについては徹底が難しかった。	・家庭とも連携して、多くの生徒が積極的に運動できるような機会を作っていく。 ・今後も食の重要性を伝え、アレルギー対策なども周知し、保護者との連携を深める。 ・小学校からの歯磨き習慣が継続できるよう、入学時の指導を徹底する。

	・2学年「職業についての話を聞く会」で学校薬剤師からお話をうかがった。身近な環境問題や健康問題などについて理解を深めるきっかけとなった。	・「学校保健委員会」に保護者の出席を呼びかけ学校医から健康問題についてお話をうかがう機会を設ける。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○生徒の評価は、昨年と変わらず高い数値を示している。 ●保護者の評価が17ポイント下がった。	<学校評価委員の意見> ・「環境教育優良校」受賞は評価できる。給食の試食をしたが、食育についての取組もうかがえた。
保護者や地域との連携 ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて 22 23 24 4 保護者 81% 地域 100% 教職員 91%	・公開授業を年9回、運動会、学習発表会、保護者会、ホームページ、学校だより、学年だより、見守りメール等を通じて、あらゆる機会に情報を発信してきた。学年だよりを各学年とも毎週1回発行し、情報発信に努めた。 ・ホームページ「八中日記」「今日の給食」の充実を図った。今後は「部活動」の項目を充実させていく。 ・人権教室、薬物乱用防止教室、目黒を知る、職業についての話を聞く会など様々な場面で地域・保護者の方に協力をいただいた。今後も地域の方の協力を仰いでいく。	・信頼される学校を目指し、来年度も様々な機会を利用して情報を発信し、保護者・地域との協力体制の強化に努める。 ・特に「見守りメール」による情報発信は好評であった。さらに活用を図る。 ・開校記念日に地域の方からお話をうかがう機会を設け、愛校心を育てる。地域行事などにも積極的に参加し、地域とのつながりを深めていく。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○学校の情報発信や家庭と地域との連携は80%以上の高い評価を得た。 ●保護者は、全体的に学校に協力的であるという項目が地域、教職員は高いが、保護者が68%で若干低い。	<学校評価委員の意見> ・住区のもちつき大会に八中생がたくさん参加してくれた。これからも中学生が地域行事に参加できるように働きかけていきたい。
小・中連携教育 ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 20 保護者 65% 教職員 55%	・小・中連携教育については、あまり実質的な連携が図れなかった。 ・教職員同士は年2回授業を見合う、きまりや行事内容を確認するなど連携を進めている。 ・今後は八中校区の「目指す子ども像」を明らかにし、共通理解のもと小中連携の在り方を考えていく。 ・空き時間などを利用して、お互いの授業を気軽に見に行けるような日頃からの連携を大切にしていく。	・「小・中連携子ども育成プラン」を念入りに作成し、それを基に児童・生徒の交流やカリキュラム等を含む連携を図り、9年間を見通した子どもの育成を目指す。 ・小学生対象に中学校の授業体験・部活動体験などを実施し、児童と生徒の交流を増やしていく。合唱コンクールのリハーサルを見てもらう。
	<四者による学校評価の主な内容>○成果 ●課題 ○中学校説明会、いじめ問題を考えるつどいで交流がもてた。 ●保護者、教職員とも、20ポイント下がった。	<学校評価委員の意見> ・八中校区の子どもたちを学校、地域、家庭が連携して育てていきたい。

内の数字は「保護者による学校評価」の項目番号です。